



小さな子どもたちを多く抱える家庭では大人が長く働きに出ることが難しく、収入不足に悩まされていることが多い

PLAYERS

国際協力の担い手たち

アジアの女性と子どもネットワーク 幼稚園舎の設立で 生計向上と教育のチャンス

多くの家庭が幼い子どもたちを抱えながら貧困に苦しむタイ東部のチョンメック村。
アジアの女性と子どもネットワークでは、
以前から支援しているこの地の学校に幼稚園舎を新設し、
保育園の機能を持たせることで親が安心して働ける機会を提供している。



村人たちが建設に携わって完成した新しいバーン・ヒン・スン・スクール幼稚園舎は5月に竣工式が行われた。子どもも大人も教育を受けられる重要な場

タイ東部のウボンラチャターニ県チオンメック村にあるバーン・ヒン・スン・スクールは、教育支援を中心にアジアの女性と子どもの権利を守る活動を続けているNGO「アジアの女性と子どもネットワーク」が支援している学校だ。現在、幼稚園児から小学6年生までの約160人が通っている。

また、この地域はラオスとの国境に近く、急速な発展を続けるタイに職を求めて越境してきたラオス人も多く住んでいる。しかし彼らの多くはタイ語を話さず、就業許可書が取得できないため働き口が限られてしまう。不安定な日雇い労働や都市部への出稼ぎで生計を立てているが、労働条件は悪い。



この学校にはタイ人の子どももラオスの子どもも通っているが、特に幼い子どもを持つ家庭は働く時間が限られ、貧困から抜け出せないでいる。託児所のような子どもを預ける場所がないからだ。

「子どもたちが安全に過ごせる場所ができれば、親たちも安心して働きに出られるようになり、彼らの収入向上にもつながっていきます」と、アジアの女性と子どもネットワーク事務局長の山本博子さんは語る。

衛生的な習慣を身に付け 生活環境の改善を

とある日の午後、新しい幼稚園舎のぞくと、子どもたちのにぎやかな笑い声が聞こえてきた。現在、2〜6歳の子どもたち約30人が通い、朝9時から午後3時ごろまで、先生と体操やゲームなどをしながら過ごしている。「子どもが、子どもらしい生活」を送れる。

教育を通して 未来を担う人材を育成

そんな当たり前のことを可能にしたいのです」と山本さんは言う。そして、幼稚園では子どもたちに保健衛生指導も行っている。病気を防ぐため、トイレに行ったら手を洗う、食後に歯を磨くなどの生活習慣を身に付ける必要があるが、教育を受けられなかった親たちには、こうした知識がないことも多い。そこで、子どもたちだけでなく、親や地域の大人たちにも栄養・保健指導の機会を設け、地域全体の生活環境が改善されることを目指している。

に進学し、教員になって出身校に戻ってきたのだ。「自分のふるさとの子どもたちに、勉強することの素晴らしさを伝えたい。そして、この村の生活が良くなるように貢献したいと思っています」と話すパッカモンさん。東日本大震災をニュースで知った彼女は、アジアの女性と子どもネットワークを心配し無事を祈る手紙を大学で学んだ日本語で書いて送ってくれたという。これにはスタッフも感動したそう。



かつて自分が学んだバーン・メーランカム・スクールに教師として帰ってきた卒業生のパッカモンさんと山本事務局長



1999年にアジアの女性と子どもネットワークの支援で建てられたバーン・メーランカム・スクールで給食を食べる子どもたち

これまでアジアの女性と子どもネットワークが設立した学校はタイ国内で10校に上り、現在は約4000人の子どもたちが学んでいる。そのうちの1つ、北部チェンマイ県にあるバーン・メーランカム・スクールには、2010年から新人の教師パッカモンさんが赴任してきた。実は彼女は、この地域の出身で、同スクールに通った卒業生。中学卒業後に奨学金を得て高校・大学

アジアの女性と子どもネットワーク
〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39
尾上町ビル9F YAAIC内
TEL/FAX: 045-650-5430
Email: awc@h6.dion.ne.jp
URL: www.awcnetwork.org

世界の人びとのためのJICA基金
JICAでは、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する寄付を受け付けています。
詳しくは